

日時：令和05年5月7日（日） 9時45分～11時45分

場所：戸畑図書館

上田, 竹内（英）, 竹内（孝）, 江藤、片山, 佐々木
山中、荒川, 若曾根 （9名）

1. 事務局長報告

- ・来年図書館リニューアル10周年。催し物として映画の上映を予定。
- ・郷土史会として映画の上映を 9月, 12月, 3月（図書館と共催）
映画の上映は例会日の13時～実施を予定している。

2. 3分間スピーチ主な内容

- ・戸畑山笠振興会に出席。今年は通常の祭り開催をする予定。
- ・郷土史会の先輩が集められた資料を廃棄されるのを会として活用保存を考えたい。
本人や家族の方と連絡を取って話を聞いていきたい。
- ・本日参加の新入会の山中sは戦国時代の戸畑に興味を持っておられるとの事。

3. 卓話 （炭鉱の詳細は添付資料参照ください）

「小倉炭鉱と寿山の思い出」 佐々木s

- ・小倉炭鉱 昭和13年～40年 古谷鉱業が操業
- ・昭和25年～30年頃 20万トン/年 2000人が働いていた。
地下水の湧く出により閉山へ
- ・当時の炭鉱労働者の住んでいた社宅「寿山地区」の思い出を紙芝居で説明。
食べていたお米は炭鉱からの配給でおいしい米であった。との事

*** 小倉炭鉱について今回の卓話で初めて知ることが出来ました。今は宅地化してその面影すら見られません。紙芝居で当時の社宅での生活が垣間見られました。

4. その他

- ・来月の定例会は 6月4日（日） 9時45分～11時45分 戸畑図書館
卓話 竹内事務局長 松本邸の保存活動について

小倉炭鉱について

小倉炭鉱は明治中頃に富野炭鉱や足立炭鉱が開鉱して、当時からそここの産出量があったようです。その後昭和13年に山口県宇部市の古谷鉱業によって開鉱されました。この小倉炭鉱は足立山の西側麓から砂津・関門海峡に向って坑道が伸びていたの、海峡を通過する船舶のスクリューの音が聞こえたといわれています。

小倉炭鉱では最盛期にあたる昭和25年から30年にかけては毎年20万トンほどの良質な石炭を産出し、およそ2000人の人たちが働いていたといえます。

小倉炭鉱の特徴として、同じく炭鉱で栄えた田川や飯塚などに見られるボタ（くず石炭などの排出物）を捨てた場所であるボタ山がなく、これらを使って湿地帯などの埋め立てをしたという特徴がありました。その為、今現在では小倉に炭鉱があったという話が、全くのように知られていない原因になっています。また、そのボタを使って埋め立てられた場所というのが、現在の北九州市民球場やメディアドームのある場所だそうです。

昭和15年、落盤と同時に海水が浸入して、30名の坑夫が事故死しました。そのうち朝鮮人坑夫は26名。昭和17年また落盤事故があり6名が死亡。うち4名が朝鮮人労働者でした。※炭鉱での苛酷な労働。その犠牲者の慰霊碑「小倉炭鉱殉職者慰霊塔」が広寿山福聚寺にあります。

